

726 遠洲錦園倶楽部発会

〔法学新報〕第32卷10(370)号 大正11年10月1日

○遠洲錦園倶楽部発会 遠洲出身中央大学学員及学生を以て組織せられたる本会は七月二十三日浜松市に學術大講演会及発会式を開催せり母校より馬場(鉄)、堀江、片山の三博士当日特急列車にて来浜し旅館大米屋に少憩後講演会場たる歌舞伎座

に來車せらる然して一般聴衆は再度得難き一流博士の新進氣鋭なる名論卓説を聞かんと陸続として參集千余に達す此処に於て一時半學員代議士井上剛一氏登壇開会の辞を述べたるに次ぎ堀江專一郎博士は『米國トラスト征伐法』片山義勝博士『株式會社の資本配當』馬場鎭一博士は『租税制度に就いて』の各題下に順次一時間乃至二時間雄弁を揮ひ聴衆に多大の感動を与ふ中途一人の退場者なく研究的態度を以て聴取し要所所は拍手喝采を以て迎へられたり最後に學員代議士高柳覺太郎氏簡單に閉會之辞を述べ午後六時講演を閉つ是より近隣せる聴濤館に於て記念撮影をなし七時より三博士歡迎會に移る「デザートコーズ」に入るや學員佐藤章次氏は立ちて歡迎挨拶をなす<sup>(ママ)</sup>に對し馬場博士主賓を代表謝辞を述らる片山博士井上代議士外數氏の感想談蔭芸等あり美妓酒巷の間を幹す歡を尽し盛會裏に十時散會せり当夜の出席者は馬場堀江片山三博士は勿論浜松市に於ける有力者十數名の外學員高柳覺太郎、井上剛一、岡崎伊勢藏、木戸梅藏、佐藤章次、中田<sup>(縣)</sup>綠郎、三井純一、馬場辛吉、大石佐平、豊田秀雄、渡邊賢一の諸氏にして又學生十余名なりき三博士の帰京を見送り學員學生列席の上前記會場に本俱樂部發會式を挙げ會則の制定其の他役員選挙をなし會長に法学博士金井延氏評議員に代議士松浦五兵衛、同高柳覺太郎、監督判事木戸梅藏、静岡民友新聞社長岡崎伊勢藏、静岡市會議長中田驥郎、弁護士大橋與四郎の諸氏又學員幹事に弁護士佐藤章次、代議士井上剛一の両氏其の他學生幹事三名各當選し散會せしは午前一時なり(石田生報)